

「四街道の環境に関するワークショップ（市民編）」意見の概要と市の考え方

令和5年3月26日（日）から6月25日（日）までの間、第3次四街道市環境基本計画策定に係る市民会議手続「四街道の環境に関するワークショップ（市民編）」を3回行ったところ、以下のとおり意見がありました。

意見の概要と意見に対する市の考え方を公表します。提出された意見については、第3次四街道市環境基本計画を策定する上での参考にさせていただきます。

1. 参加者数：30人

2. 意見の件数：69件

3. 開催概要

	日 時	会 場	参加人数
第1回	3月26日（日）13時30分から15時30分まで	四街道市役所	12人
第2回	6月18日（日）10時00分から11時00分まで	四街道市役所	10人
第3回	6月25日（日）10時00分から12時00分まで	四街道市役所	8人

4. 意見の概要

No.	分野	意見の概要	市の考え方
1	脱炭素化	LED への切り替え、冷蔵庫などの省エネ家電への買い替えが重要。お店の店員にも省エネルギーをアピールしてもらい、売り方や説明をきちんとしてもらう。どれくらいの効果か、お店でデータを示してもらう。	実際に省エネの促進方法を検討する際に参考とさせていただきます。
2	脱炭素化	10 年以上前の冷蔵庫を使っていたりする人が多く、省エネルギー型製品について知らない人が多い。もっと省エネルギーの製品（家電）について周知が必要だと思う。市政だよりも省エネルギー情報が載っていたりするが、あまり見えていない場合もある。	省エネ製品の有効な情報発信方法について調査検討を進めてまいります。
3	脱炭素化	省エネルギー型の家電であれば、どれくらいの省エネルギー効果があるか、節約できる量をデータで示す。	実際に省エネの促進方法を検討する際に参考とさせていただきます。
4	脱炭素化	買い替えするメリットが必要。助成金や補助金がもらえるという情報が必要。	省エネ製品の補助金情報について周知してまいります。
5	脱炭素化	住宅で窓や屋根の断熱を進める。	住宅の断熱化を促進してまいります。
6	脱炭素化	家庭では冷暖房した居間に集まるなど、家庭での工夫をしていくとよい。	家庭での有効な省エネ方法について周知してまいります。
7	脱炭素化	電気、ガス、燃料の使用量の枠を決めて、それ以上エネルギーを使ったら使用できなくなるようにすればよい。	家庭での有効な省エネ方法の参考とさせていただきます。

No.	分野	意見の概要	市の考え方
8	脱炭素化	自治会などで、省エネルギーなどの座談会をひらくのはどうか。	実際に省エネの促進方法を検討する際に参考とさせていただきます。
9	脱炭素化	気候変動で将来大変なことが起こる、ということを伝える。次の世代のために行動しなければならないことを訴える。	実際に気候変動の周知方法を検討する際に参考とさせていただきます。
10	脱炭素化	環境家計簿をつけて、目標数値を決めて、目標達成できたら褒めてもらえる、文化センターの演劇の鑑賞券などがもらえるしくみにすればよい。	実際に環境家計簿の普及促進を検討する際に参考とさせていただきます。
11	脱炭素化	グリーンカーテンを設置する。	グリーンカーテンの設置を促進してまいります。
12	脱炭素化	太陽光パネルの設置。特に既存住宅に設置をする。	太陽光パネルの設置を促進してまいります。
13	脱炭素化	プラスチックごみ対策を進める。	プラスチックごみ対策を推進してまいります。
14	脱炭素化	自動車を使わず、徒歩や公共交通機関を使用する。特にヨッピーをどんどん利用するとよい。	自動車の利用抑制を促進してまいります。
15	脱炭素化	水素燃料を使用する。自動車は水素燃料にすれば温室効果ゼロになる。	水素燃料の使用について情報を収集してまいります。

No.	分野	意見の概要	市の考え方
16	市の自然	ヘイケボタルの生息地の保全・整備が必要。生息地が減少しつつある。ホタルやメダカは四街道市の自然環境の豊かさをはかるバロメーターである。ホタルを活用した環境教育も実施できる。	ホタルの自生地の保全・活用を推進してまいります。
17	市の自然	四街道市にはホタルやメダカが生息するなど、谷津をはじめとする素晴らしい自然が残されている。イノシシやシカを目撃情報もあり、野生のほ乳類が生息できる環境といえるかもしれない。巨木も多く、鎮守の森も誇れる資源である。手繰川沿いも風景がよい。小名木川沿いはウォーキングしている人も多い。吉岡や鷹の台の周辺は自然や歴史資源が豊富にある。自然を守る活動をしている団体や市民が多いのも特徴ではないか。	本市の豊かな自然を保全してまいります。
18	市の自然	里山保全に関わる団体の多くが、人材不足、活動資金不足という大きな課題を抱えている。そのあたりに打開策が見いだせないと、自分の活動フィールド以外までは手を出せないと思う。資金確保と活動レベルは比例する。活動資金があれば、いろいろな取組みができるのと思うことも多い。	資金面の補助も含め、環境保全活動団体と協働してまいります。
19	市の自然	里山は、人の生活と密接に結びついて形成されてきた環境であるが、地権者の高齢化などもあり、樹林の管理など手入れがされていない里山が増えている。	手入れの行き届かない樹林の整備に努めてまいります。

No.	分野	意見の概要	市の考え方
20	市の自然	豊かな緑は四街道の大事な資産であるが、開発で住宅地やヤードに変わりつつある。開発を規制することはできないか。	住宅地については、都市計画法に基づき千葉県の手続きにより立地基準や技術基準を満たしたものが許可されています。ヤードについては自動車リサイクル法等（金属スクラップヤードについては来年度施行予定の千葉県特定再生資源屋外保管業の規制に関する条例）により施設基準を満たしたものが許可されています。
21	市の自然	大日地区は緑が少ないと思うので、公園が必要ではないか。	公園の整備を検討する際には、参考にさせていただきます。
22	市の自然	野立ての太陽光発電設備設置への規制が必要でないか。	太陽光発電設備の導入拡大においては、自然環境や生活環境への影響に配慮してまいります。
23	市の自然	郷土の森の手入れが必要。総合公園のカタクリの生育などは手入れをしている成果でもある。	環境保全活動団体と協働し、本市の自然を保全してまいります。
24	自然環境情報	四街道には、素晴らしい自然があることを多くの市民が知らない。ホテルなど、四街道の自然の豊かさをもっと知ってほしい。四街道の里山環境を多くの市民に知ってもらい、意識を高めていけるとよい。	本市の豊かな自然を周知してまいります。
25	自然環境情報	里山保全の活動をしている団体などが知られていないのも問題である。	環境保全活動団体の活動を周知してまいります。
26	自然環境教育	四街道の自然を未来の子どもたちのためにも残していきたい。四街道の自然の素晴らしさを子ども達に伝えたい。	本市の豊かな自然を環境教育に活用してまいります。

No.	分野	意見の概要	市の考え方
27	自然環境教育	里山をフィールドにした環境教育を実施中である。こうした取組みが定着していくとよい。	本市の豊かな自然を環境教育に活用してまいります。
28	自然環境教育	子どもたちに公園の樹木に「木の名札」をつけてもらう取組みを進めている。名札をつけた樹木のことを調べたり、愛着を持ってもらえるなどの効果がある。	実際に環境教育の方法を検討する際に参考とさせていただきます。
29	自然保護活動	子育て世代や学生にも自然を守る活動には参加してもらいたいと思う。	様々な世代に保全活動に参加してもらえるよう工夫してまいります。
30	自然の現状把握	なんとなく「四街道市は自然が豊か」という感覚があるが、自然のデータの裏付けをとった上で、どういうところでどのくらい自然が豊かなのか、が示せるとよい。	生きもの調査等により、市の自然を把握してまいります。
31	自然の現状把握	未来へ里山を残すための具体的な方向性を決めるべき。具体的な方向性を定める前に、市内の里山が現在、どのような状況にあるのか把握できていないことが大きな問題ではないだろうか。活動団体がフィールドにしている里山の状況はわかるが、それ以外は、よくわかっていない。市内の里山の実態、基礎的な情報から収集すべきではないか。場所によって、保全すべき里山、活用できる里山と対応は異なるので、まずは各地区の特徴を把握し、各地区の特性に応じた対応が必要である。市内の里山の状況をデータ化、見える化することで、具体的な保全・活用方針が定められる。保全場所の優先順位も決められるのではないかと。	まずは市の現状について基礎情報を把握してまいります。そのうえで、保全すべき地区を選定し、各地区の特性に応じた保全・活用をしてまいります。

No.	分野	意見の概要	市の考え方
3 2	自然の現状把握	GPS（GIS データ）なども活用して情報収集できないか。地区別で整理するなどの工夫もしたい。生物種の状況については、生きもの探しと連携できるのではないか。	実際に基礎情報の把握方法を検討する際に参考とさせていただきます。
3 3	自然の現状把握	市内の里山カルテ・里山マップを作成してはどうか。 里山カルテの掲載情報（例） ・ 位置、概略の区域 ・ 区域の里山の特徴 ・ 里山の状態評価 ・ 生物種の状況 ・ 歴史資源等の状況 ・ （わかる範囲で）地権者の状況 ・ 維持管理・管理レベルの状況 これらの情報を市内の保全団体と連携しながら収集できないか。	実際に基礎情報をまとめる際に参考とさせていただきます。
3 4	環境観察モデル地区	環境観察モデル地区（里山などの自然環境を観察できる地区）の選定に先立って、市は、市内の谷津・里山の保全・活用の方針を策定すべきと考える。	谷津・里山の保全・活用にあたっては、方針の策定も含め検討してまいります。
3 5	環境観察モデル地区	里山は人の生活と結びついて維持されてきた環境であり、モデル地区はそうした里山文化の大切さや素晴らしさを発信できる場所になるとよい。	実際に里山を活用する際に参考とさせていただきます。

No.	分野	意見の概要	市の考え方
36	環境観察モデル地区	モデル地区では、小学生等の自然観察活動と結びつけた活動ができるとよい。自然体験（森や里の手入れ体験、タケノコ掘り、農業体験、創作体験（樹木プレート作成等）、ホタル観察等）を通じて自然環境や生物多様性について学習するとよい。植物の講座や、ボーイスカウト・自衛隊等と連携して災害・防災体験の場として使用するなど、土地のポテンシャルを活かした内容もよい。	実際に里山を活用する際に参考とさせていただきます。
37	環境観察モデル地区	モデル地区では、市（子育て支援課等）や学校と連携して、遊びや現地体験を通じて環境保全の大切さを知ってもらいたい。	実際に里山を活用する際に参考とさせていただきます。
38	環境観察モデル地区	様々な人に四街道市の自然を知ってもらう上で、参加導入のハードルの低い体験活動などを通じて、まずは自然とふれあえる機会創出を図り、そのうえでなぜ里山ができたか等、土地の歴史や文化などを知ってもらえるようにしたい。	実際に里山を活用する際に参考とさせていただきます。
39	環境観察モデル地区	モデル地区は、四街道市の特性でもあるホタルをはじめとした生物多様性について学べる場所がよい。	実際に保全する地区を検討する際に参考とさせていただきます。
40	環境観察モデル地区	モデル地区は、里山等の手入れの必要性についても知ってもらい、積極的に自然保全と関わってもらえるような人材育成に繋がればと思う。	実際に里山を活用する際に参考とさせていただきます。

No.	分野	意見の概要	市の考え方
4 1	環境観察モデル地区	モデル地区をいくつか設定するのであれば、単一の属性ではなく多様な属性（歴史的観点、ホタル等の生物多様性がある、体験学習がしやすいなど）のもと選定してもよいと思う。	実際に里山を活用する際に参考とさせていただきます。
4 2	環境観察モデル地区	市民団体が実施している自然観察会の参加者は高齢者が多いので、モデル地区では高齢者目線での対応も必要ではないか。	実際に里山を活用する際に参考とさせていただきます。
4 3	環境観察モデル地区	モデル地区のうちの一つでもよいので、障害者等も参加できるようバリアフリーが整った場所も選定してほしい。	実際に保全する地区を検討する際に参考とさせていただきます。
4 4	環境観察モデル地区	アクセスが良くないと市民は来ない。モデル地区は気軽に来られるような所がよいのではないか。公共交通の便がよい、駐車場スペースが確保されている等、市民が参加しやすいこと。また、トイレ等の便益施設が整備されていることも重要。	実際に保全する地区を検討する際に参考とさせていただきます。
4 5	環境観察モデル地区	モデル地区は、市民や市民団体主導で活動しやすい場所、市民団体が集まりやすい場所であれば協力体制が取りやすい。	実際に保全する地区を検討する際に参考とさせていただきます。
4 6	環境観察モデル地区	モデル地区の候補として、成山、たかおの杜は、湿地があるのをはじめホタルやメダカなどが生息しており、自然観察をできる条件は整っている。	実際に保全する地区を検討する際に参考とさせていただきます。

No.	分野	意見の概要	市の考え方
47	環境観察モデル地区	四街道市では既に「たろやまの郷」の活動実績があるので、モデル地区としてもよいのではないか。既に維持保全をしている場所のほうが導入ハードルは低いと思われる。こうした活動を全市に広げていくということが必要だと思う。	実際に保全する地区を検討する際に参考とさせていただきます。
48	環境観察モデル地区	モデル地区の保全・活用も行政が主体でやるのか、市民団体が主導でやるのかによって、対応できることも異なってくる。	保全する地区においては、活動主体は市民団体、諸々のサポートは市、という形態を想定しております。
49	自然保護における協働	里山の保全には地権者の協力が不可欠である。地権者の協力を得るためには、里山を保全することのメリットを伝えていかなければならない。地権者が売却すると言えば、活動団体（あるいは市）として止めることができない。地権者に対してどのような支援をしていくのかといったことも重要である。	地権者への働きかけについて検討してまいります。
50	自然保護における協働	千葉市では良好な里山を「里山地区」として指定し、地権者と協定を結びつつ市民団体の協力を得ながら保全活動を実施している。地権者、活動団体、市の相互理解・相互協力が不可欠となる。	地権者、活動団体、市の協定について検討してまいります。
51	ごみ対策	スーパーマーケットなどの分別ステーションが多くなってきてよいと思う。もっと周知をして、より多くの人に活用してもらえるとよいと思う。	事業者による分別回収を周知、促進してまいります。

No.	分野	意見の概要	市の考え方
52	ごみ対策	ものを買うとプラスチックの容器や袋など多くのごみが出る。売る側もごみを少なくする工夫をする必要がある。	事業者による自発的なごみの発生抑制の側面支援をしてまいります。
53	ごみ対策	集積所では、分別ルールを守らず持っていったもらえないごみが残っていることがある。	ごみの分別排出の徹底を図ってまいります。
54	ヤード	周辺にヤードが多い。樹木が伐採され、ヤードになってしまっている。ヤードの規制が必要。四街道市だけでなく、近隣市との協力をしていく必要があると思う。	近隣市と協力してヤードに対応してまいります。
55	ポイ捨て・美化推進	ごみゼロ運動に参加してもらおうよう、働きかけが必要。放送などで呼びかけたりして、市民の参加意識を高めたらい。	今後とも、防災行政無線での呼びかけを含め、ごみゼロ運動を周知してまいります。
56	ポイ捨て・美化推進	ごみのポイ捨てが多い。特にペットボトル、空き缶が多い。コンビニエンスストアやガソリンスタンドの前や、その道路脇にごみが捨てられていることが多い。	ごみのポイ捨てを防止するための啓発・美化活動を推進してまいります。
57	ポイ捨て・美化推進	花壇の花の手入れをもっとするとよいと思う。	実際に美化推進を行う際に参考とさせていただきます。
58	環境教育・環境活動	学校の環境教育をもっと活発にしてほしい。子どもたちの環境教育を組織的に行うとよいのではないか。小学校4年生に対し今までは出前講座を実施していたが、今はコロナで出来ていない。学校の担当の先生も忙しいようで、なかなか出前講座の受け入れ態勢ができていないように思う。校長会などで環境教育や出前講座の周知ができれば、学校での環境教育が活発になるのではないか。	実際に出前講座を行う際に参考とさせていただきます。

No.	分野	意見の概要	市の考え方
59	環境教育・環境活動	大人が自然と触れ合う機会、学習する機会が少ない。大人向けの環境教育が必要。	体験型を含む環境学習機会の充実を図ってまいります。
60	環境教育・環境活動	一部の人たちだけが環境活動をしていて、若い世代（30～40代）が環境活動に参加していない。子育て世代にもっと環境について知ってほしい。自治会を活用して、親子で環境活動を実施するようにしてはどうか。	実際に環境活動を推進する際に参考とさせていただきます。
61	環境教育・環境活動	環境団体では高齢化が進み、あと5年もすると活動を続けることができない状態になってしまうと思う。高齢者は知恵や能力があるが、体力がない。若い人は経験が足りないが体力がある。世代間での能力の有効活用が必要ではないか。	環境団体と連携し、若い世代の環境ボランティアを養成してまいります。
62	環境教育・環境活動	環境講座の情報を整理して、もっと活用できるように情報発信してほしい。	わかりやすい情報発信に努めてまいります。
63	環境教育・環境活動	市政だよりを活用するとよい。未来の生活の姿をイラストで示すとよい。	実際に環境教育を行う際に参考とさせていただきます。
65	環境教育・環境活動	新庁舎をそのまま環境教育に使うとよい。屋上緑化やLEDなど、建物そのものを見ることで環境教育になる。新庁舎には環境情報コーナーを設けて情報発信するとよい。	実際に環境教育を行う際に参考とさせていただきます。

No.	分野	意見の概要	市の考え方
66	協働	環境保全活動をしている団体への声掛け、つながりの強化、ネットワークの構築が必要ではないか。団体同士の連携や、活動報告、情報交換の場を設けるのがよいのではないか。	団体同士の連携を図る場について検討してまいります。
67	協働	事業者（企業）等や小学校との連携ができないだろうか。市、企業、学校が集まってエコ活動をする会が必要だと思う。環境に関する座談会を開き、市長や企業、小学校の先生など、いろいろな人が集まって情報交換できるとよい。いろいろな地区で開催する。	事業者や小学校との連携について検討してまいります。
68	協働	週末に駅前をきれいに掃除している人がいたりする。企業が掃除しているときもある。そういう活動はとてもよいと思う。企業と一緒に、まちのごみをなくしていくことが必要だと思う。	事業者と協働した美化活動を推進してまいります。
69	計画全体	計画には、市民がやるべきことを書く必要がある。	計画には市民の取組みについて掲載いたします。

5. ワークショップの対象としていない意見

なし